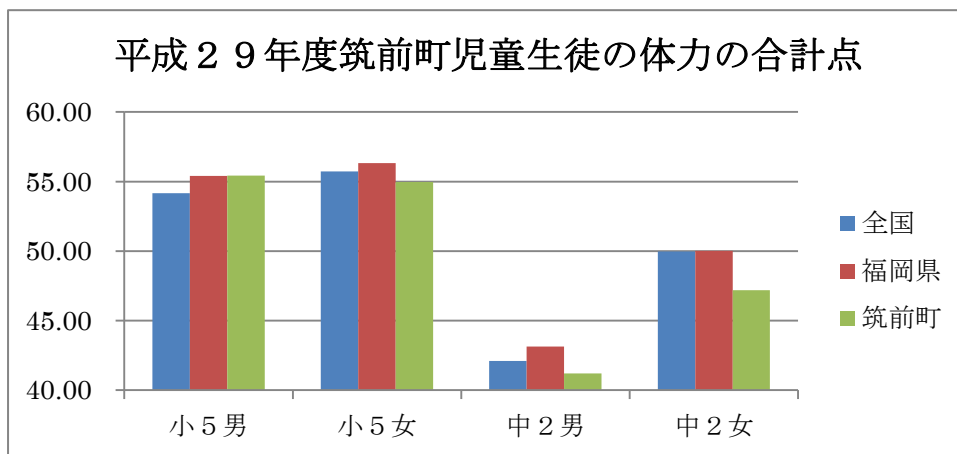


平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要について

1 平成29年度体力合計点



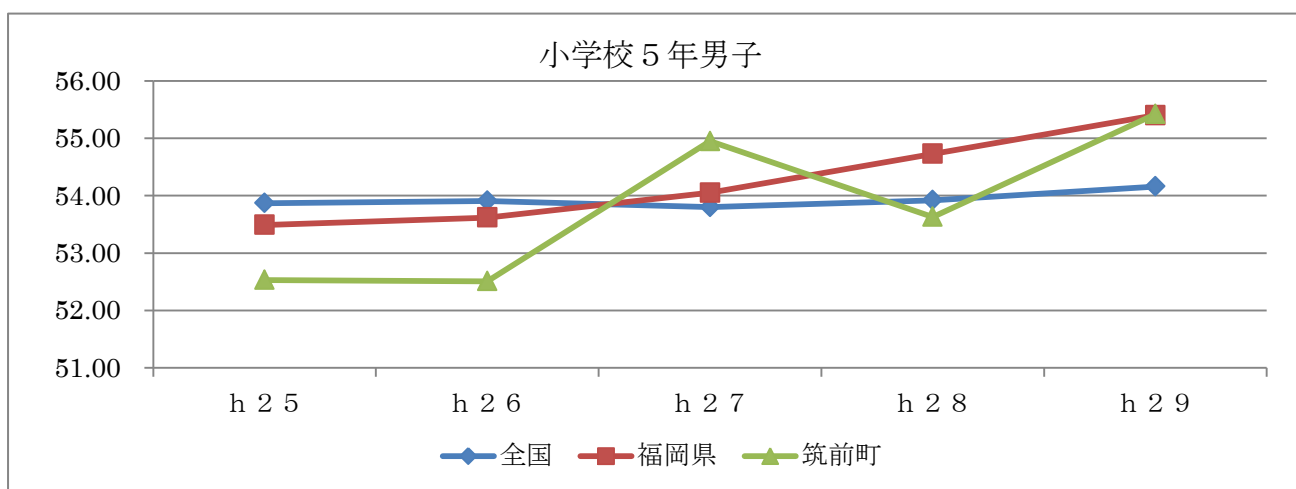
※体力合計点とは、種目ごとの測定値を10点満点で換算し、計8種目の80点満点での一人一人の体力合計点から平均値を算出したもの。(小学校男・女、中学校男・女でそれぞれ換算規律が異なる。)

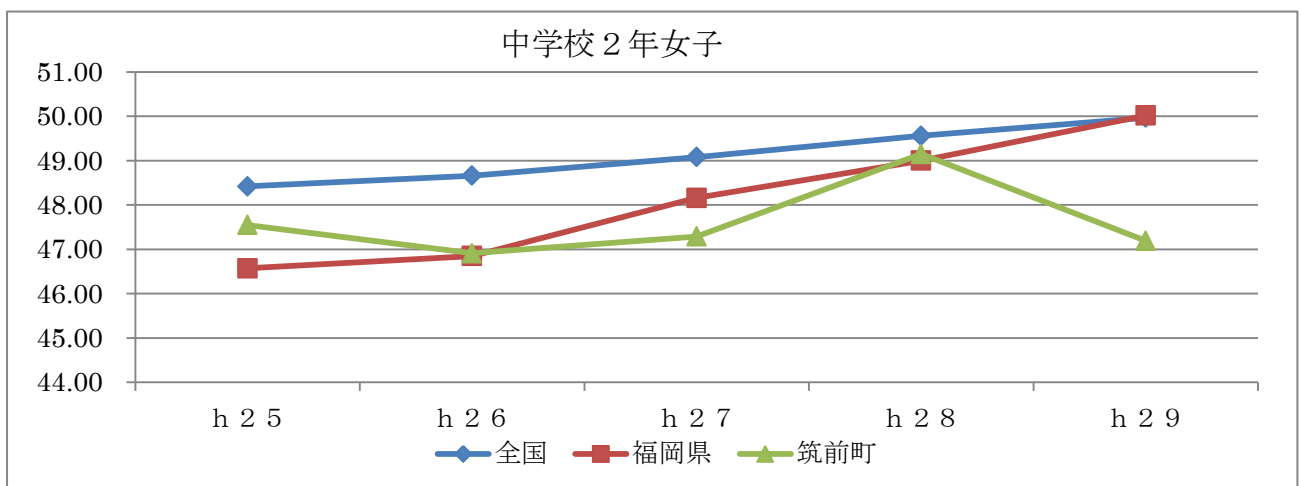
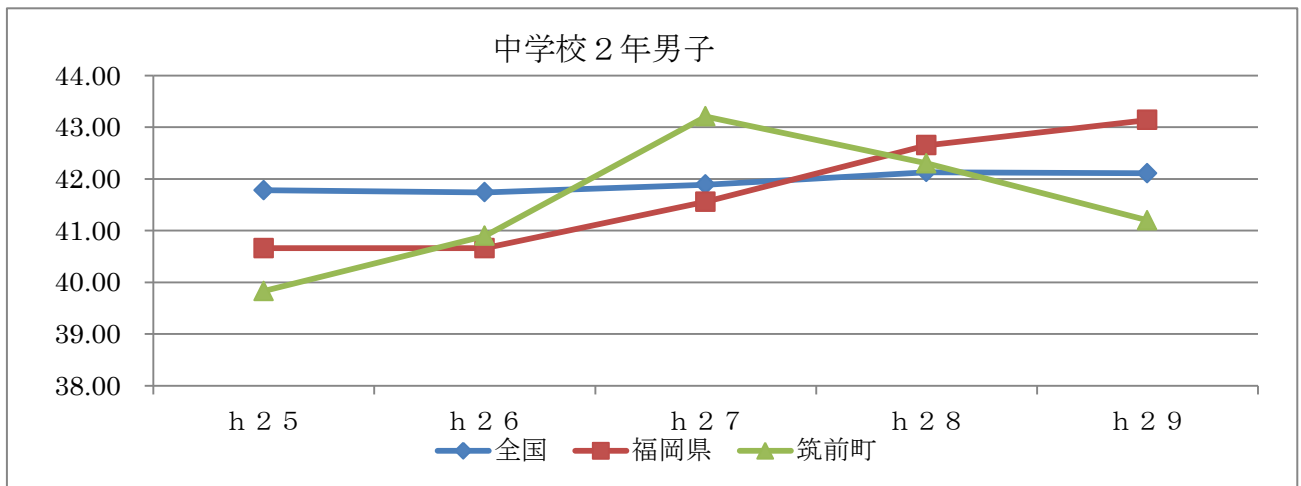
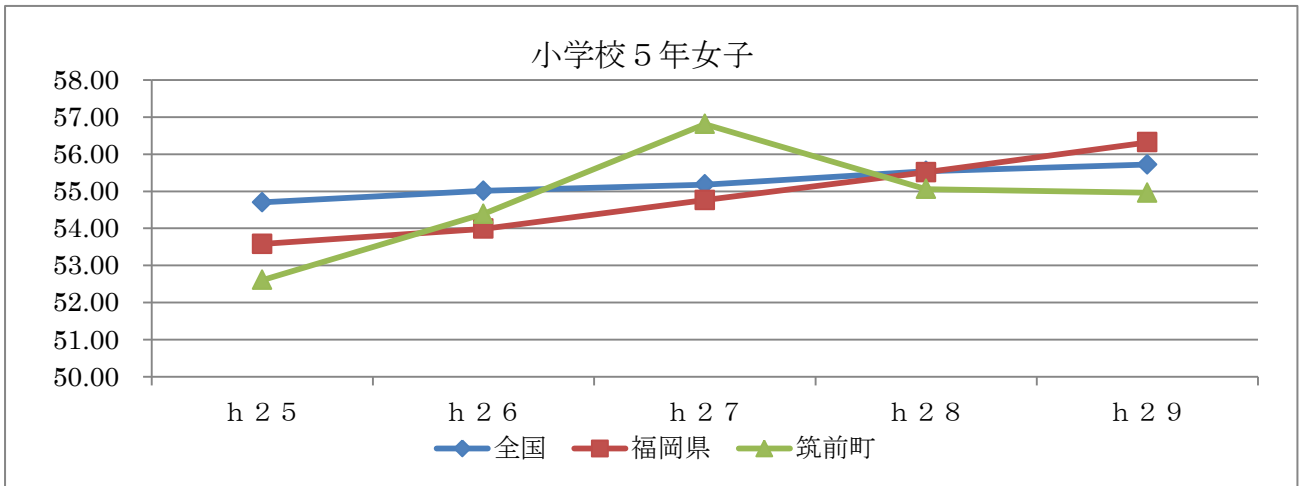
h29	小5男	小5女	中2男	中2女
全国	54.16	55.72	42.11	49.97
福岡県	55.40	56.32	43.14	50.02
筑前町	55.42	54.96	41.20	47.19

■ 全国及び県を上回る
■ 全国または県を上回る
■ 全国及び県を下回る

平成29年度の体力の合計点においては、小学校男子は全国及び県の平均値を上回っている。小学校女子、中学校男子及び女子は、全国及び県の平均値を下回っている。

2 経年比較



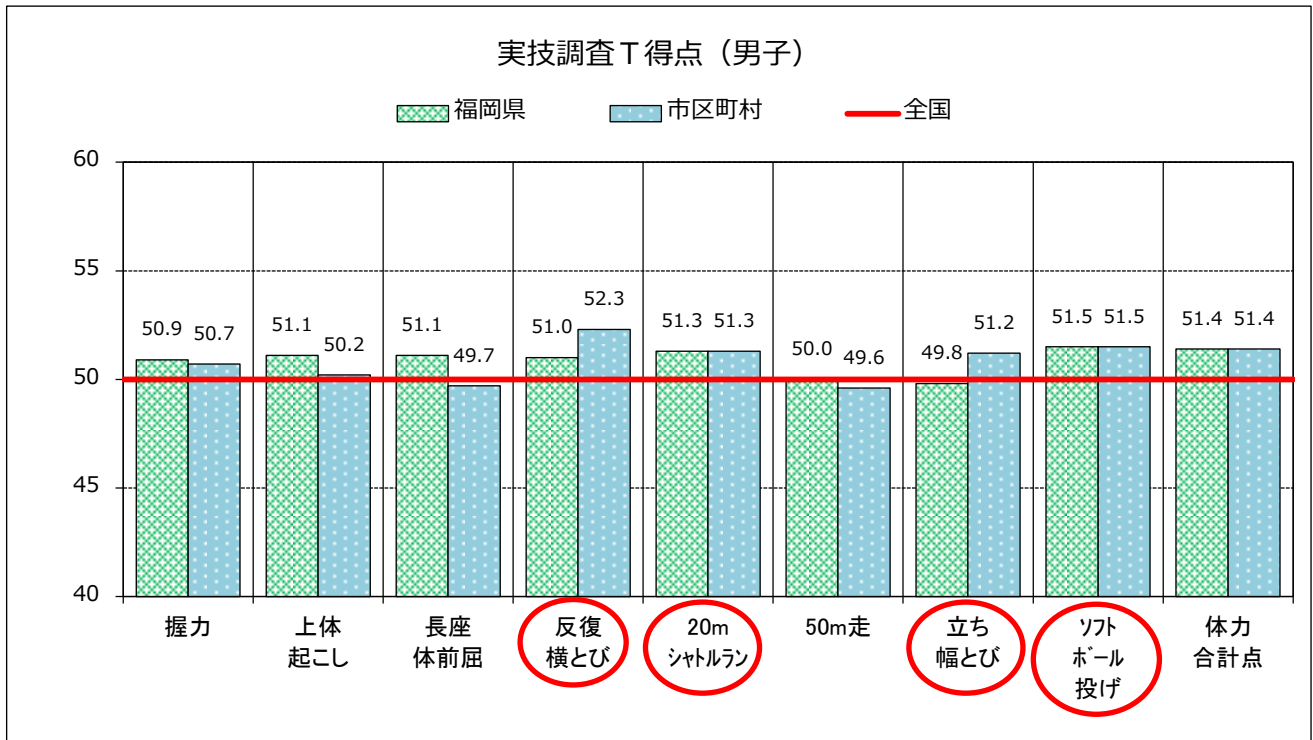


経年変化については、小学校男子において上昇の傾向にある。中学校女子については、平成28年度まで上昇傾向であったが、本年度下降している。小学校女子・中学校男子については下降傾向にある。

3 課題分析

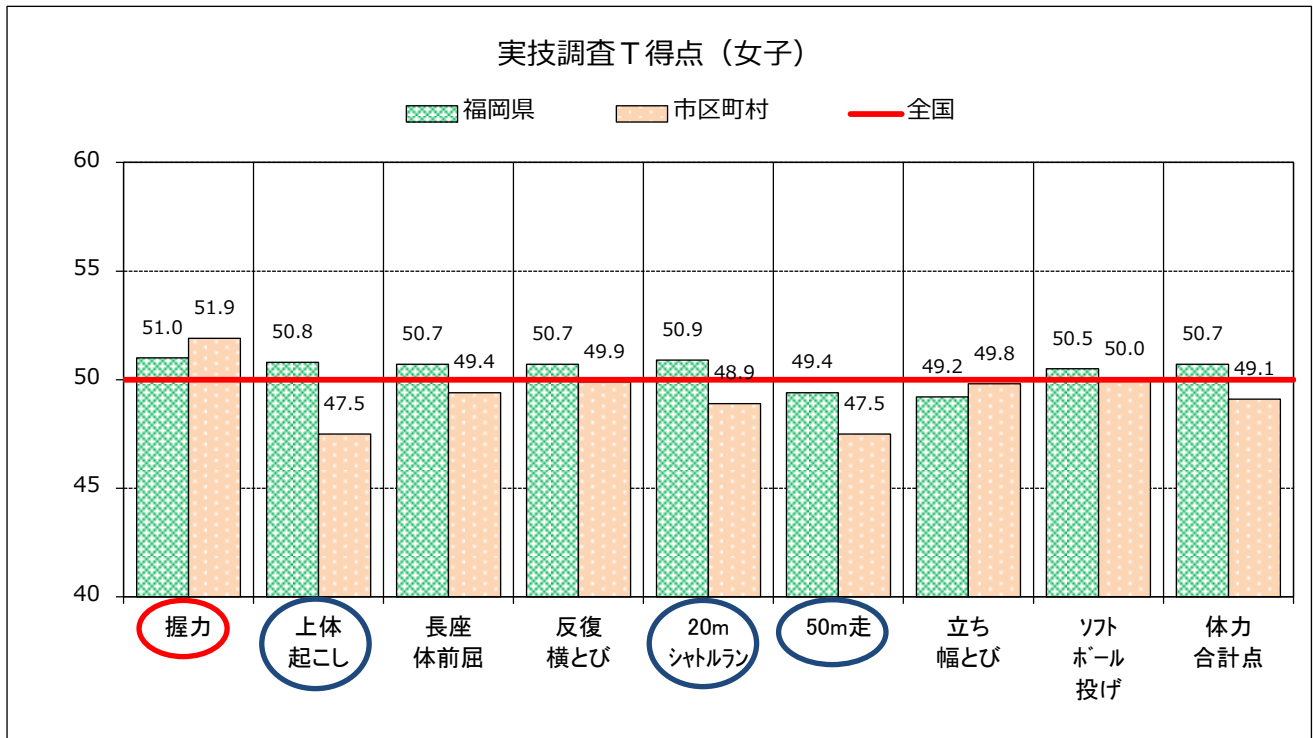
(1) 平成29年度の種目別結果

<小5男子>



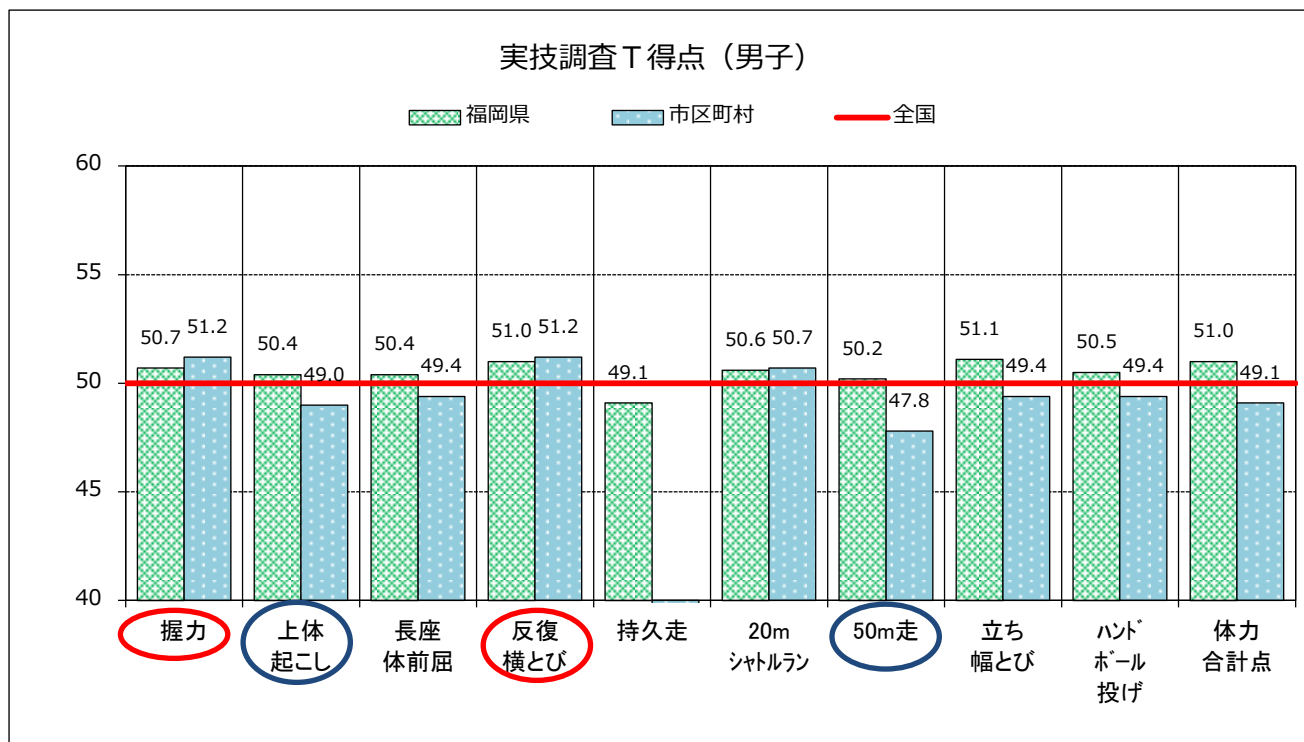
※平成28年度については、「長座体前屈」「シャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」が全国を下回る。

<小5女子>



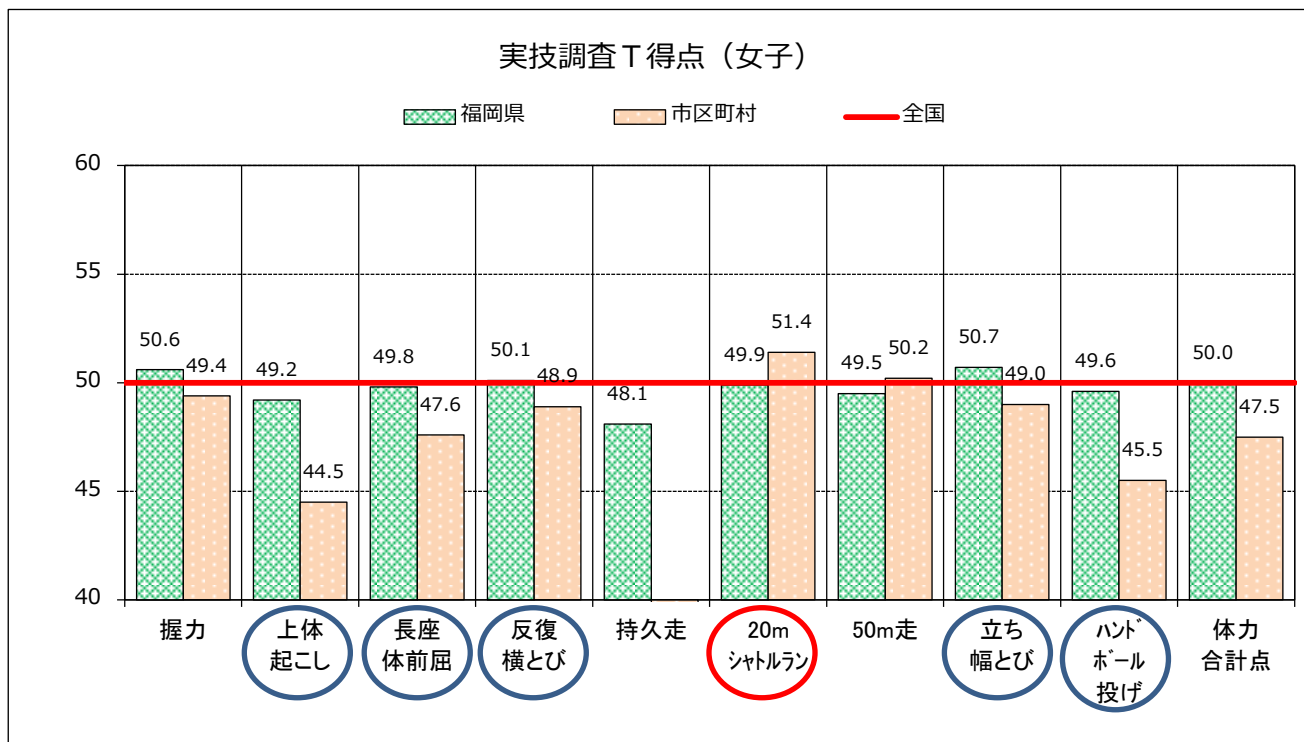
※平成28年度については、「長座体前屈」「シャトルラン」「立ち幅跳び」が全国を下回る。

<中2男子>



※平成28年度については、「50m走」「ハンドボール投げ」が全国を下回る。

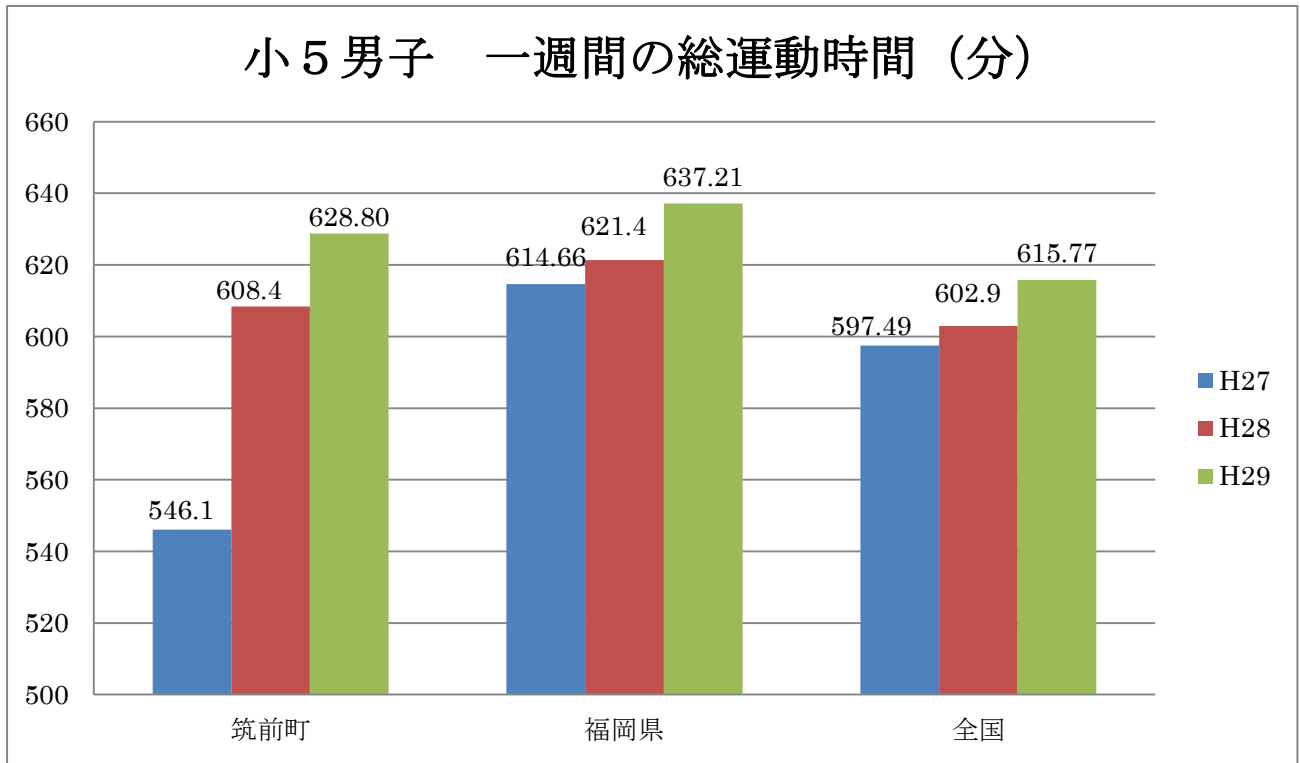
<中2女子>



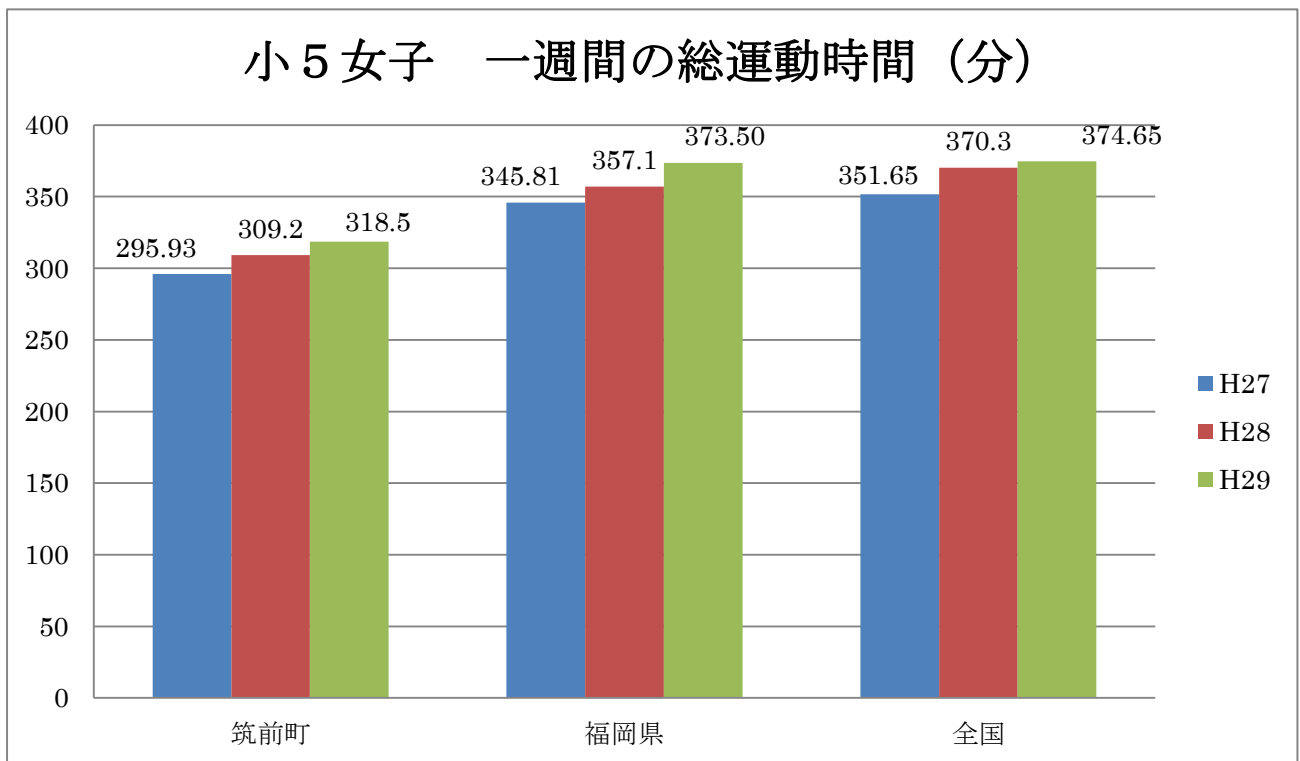
※平成28年度については、「上体起こし」「50m走」「ハンドボール投げ」が全国を下回る。

(2) 1週間の総運動時間(分)

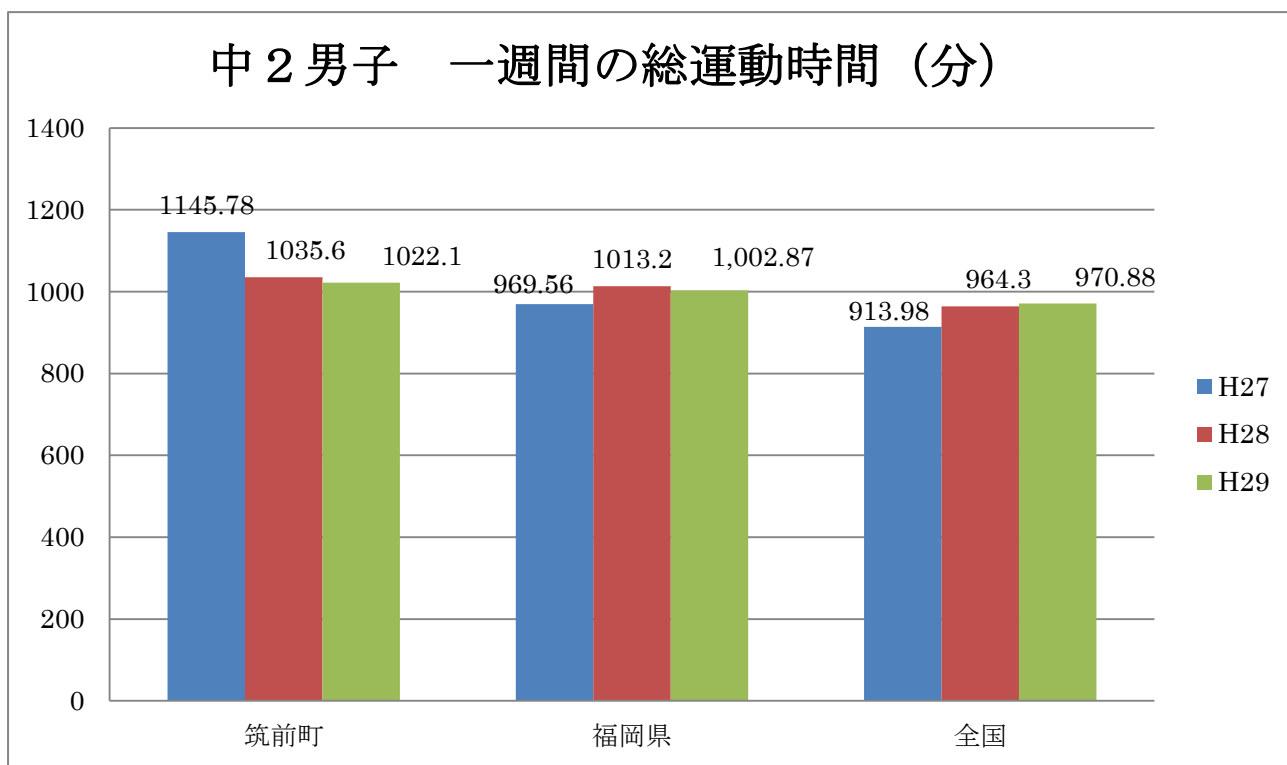
<小5男子>



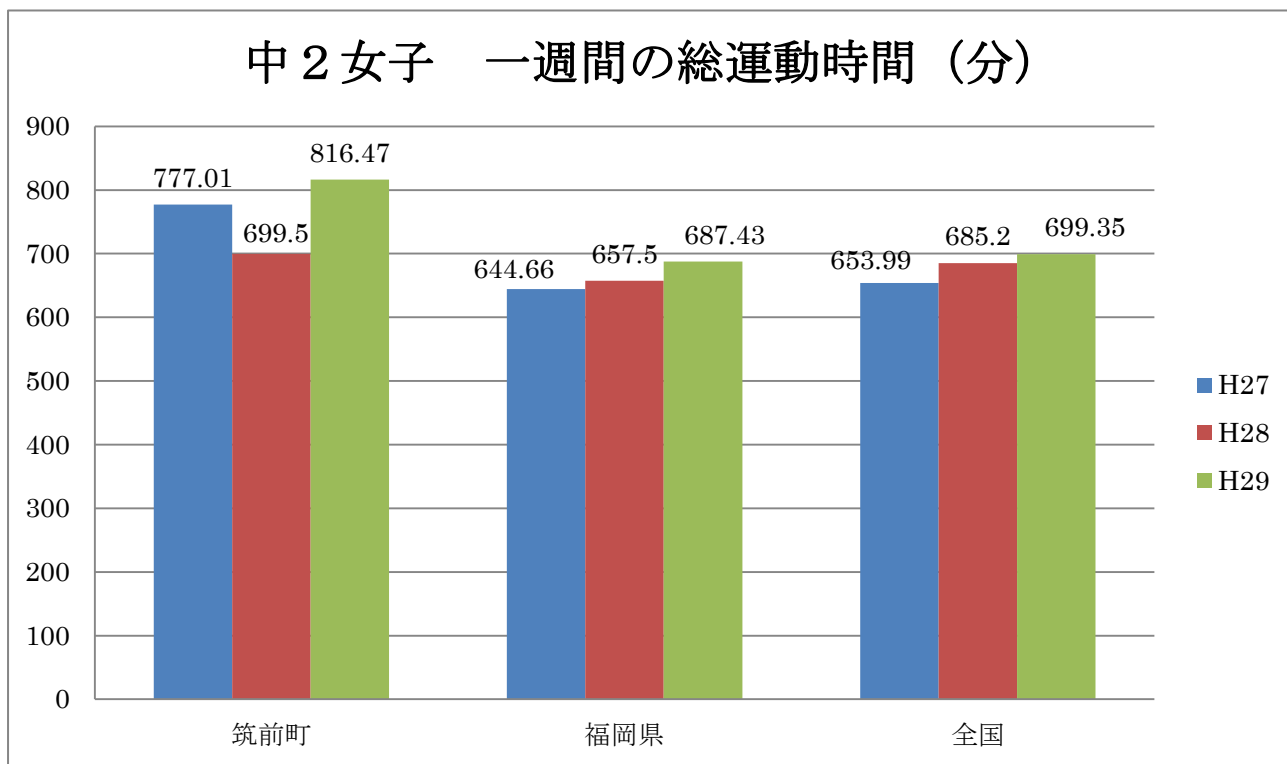
<小5女子>



<中2男子>



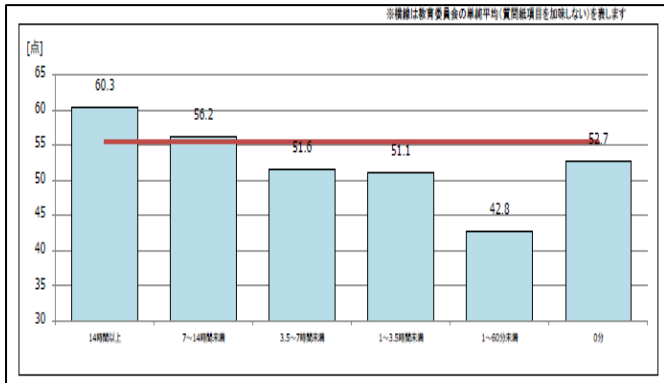
<中2女子>



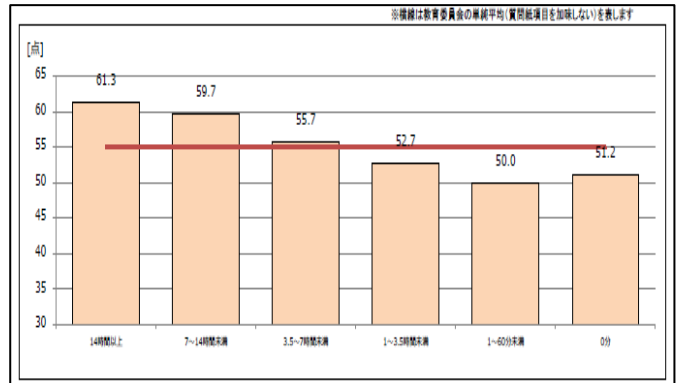
(3) 「体力合計点」と有意性がある「質問項目」(クロス分析)

【1週間の総運動時間】

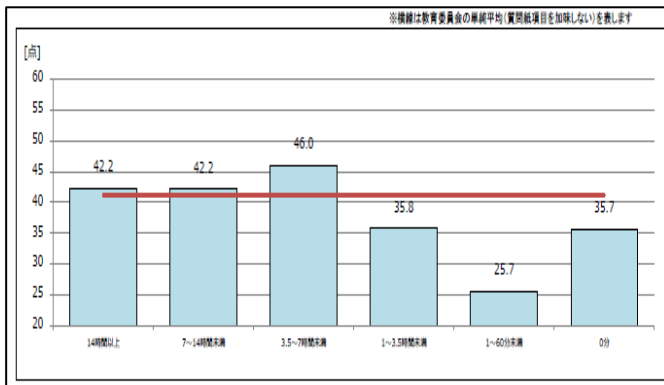
<小5男子>



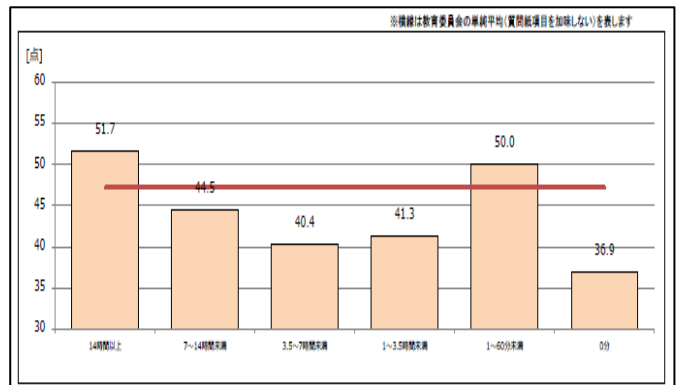
<小5女子>



<中2男子>

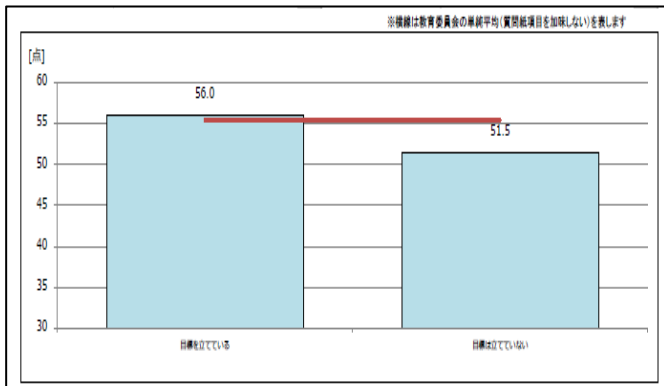


<中2女子>

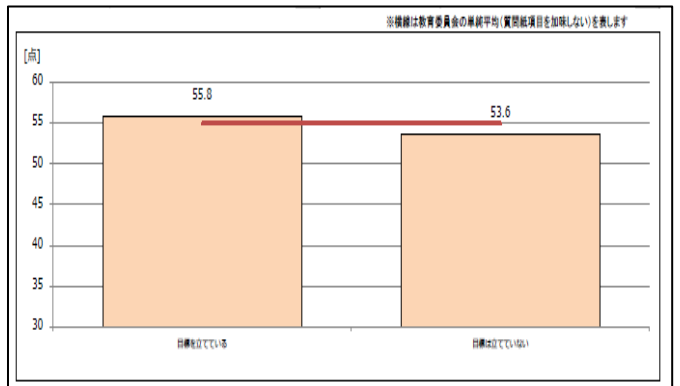


【体力・運動能力向上の目標】

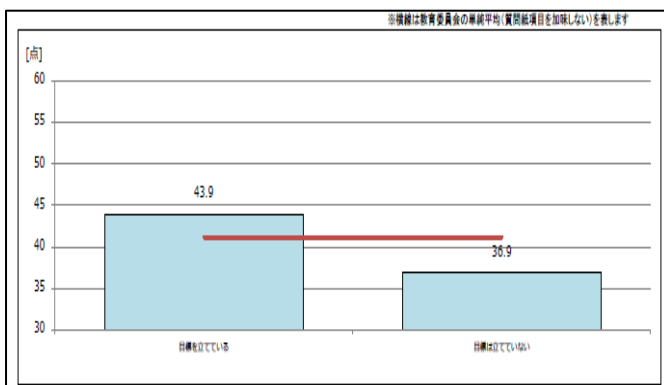
<小5男子>



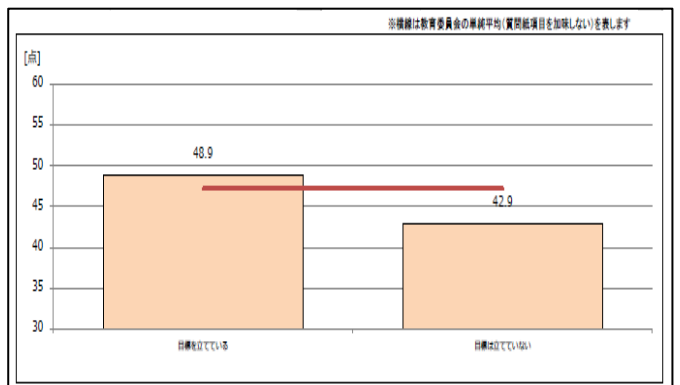
<小5女子>



<中2男子>

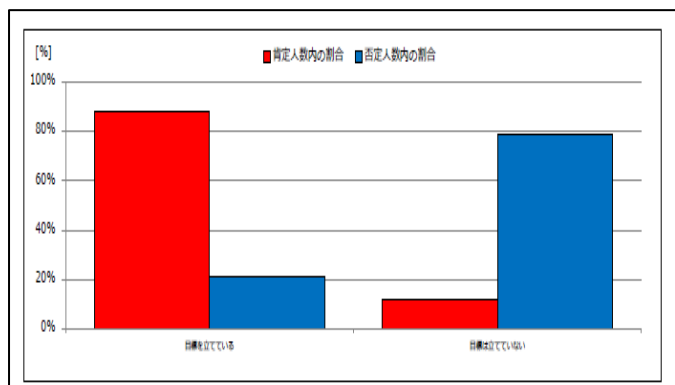


<中2女子>

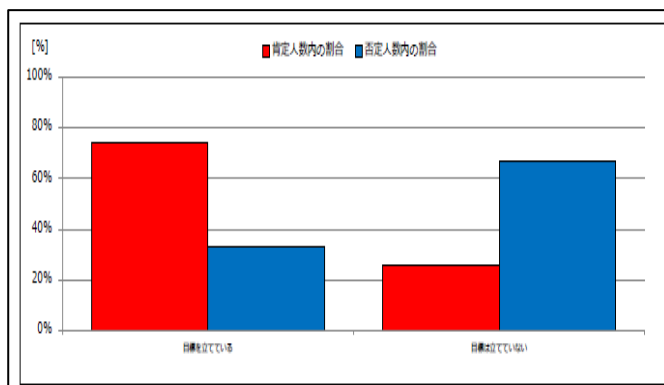


(3) 「『体育の授業は楽しい』の肯定・否定」と有意性がある「質問項目」(クロス分析)
【体力・運動能力向上の目標】

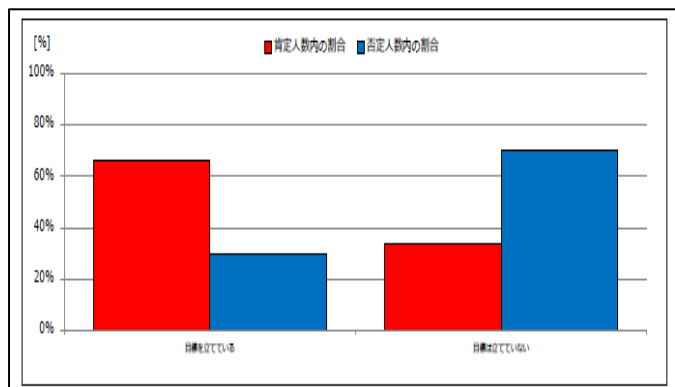
<小5男子>



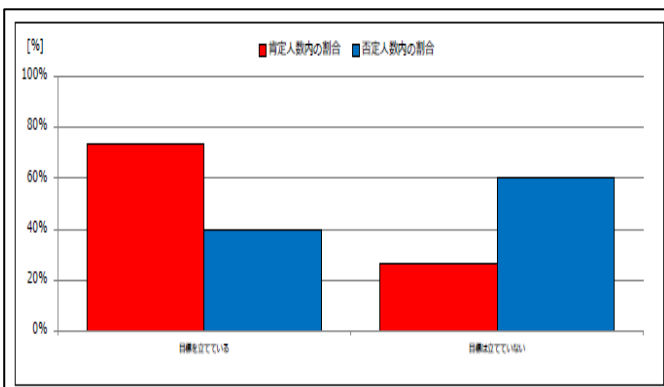
<小5女子>



<中2男子>



<中2女子>



4 今後に向けて

- 一週間の総運動時間については、体力向上との関係性が強いことから、昼休みや放課後及び休日における運動意欲を喚起するために、「体力アップシートの活用」「運動(遊び)の場づくり」「体育科授業と関連させる取組」「体育的行事(運動会・体育会・クラスマッチ等)と関連させる取組」を通して、運動する意欲を育むための意図的な「しかけ」が大切である。
- 中学校においては、運動部活動や地域でのスポーツ活動に所属していない生徒に対する運動への意欲を育むための工夫が必要である。
- 「目標設定」や「挑戦意欲」は、体力向上と深い関係にあることから、自己やチームの目標に向かって粘り強くチャレンジする授業、運動に対して達成感や満足感を育むような取組等、日々の授業づくりや体育的行事を一層充実させる必要がある。
- 自校の調査結果分析を踏まて、体力向上プランの見直し、教育課程の編成等、教育活動における焦点化、具体化した取組を構築していくことが大切である。
- 種目別結果から、自校の全国平均を下回っている種目や例年下回っている種目を分析し、体育科の授業における導入時の運動(ウォーミングアップ)に焦点化した運動を取り入れる等の工夫が必要である。

